



産卵能力の高いウズラ2系統を開発

— 近交退化を解消し、生産性を向上します —

開発の背景・ニーズ

愛知県のウズラ卵は全国1位の産出額（シェア約7割）を誇ります。ウズラ農家では自家繁殖を行っており、近年、生産現場で近親交配による生産性の低下がみられるようになりました。そこで、農家からの要望を受け、丈夫で産卵性の高いウズラの開発に取り組みました。

成果の内容

ブラウン系統「BB」及び野生色系統「WW」の羽色の異なる2系統を、産業利用としては全国で初めて開発しました。これらの系統は産卵性や規格卵率に優れ、商品価値の高い粉ふき卵を良く産みます。また、県内で飼育されているウズラとは血縁が離れているため、親鳥として利用することで近親交配による卵の生産性低下等が改善されます。さらに、「BB」のオスを一般のウズラ（羽の色：野生色）のメスと交配すると、産まれたヒナの羽の色はオスが野生色、メスが茶色になり、羽の色で性別を見分けることができます。



写真1 ブラウン系統「BB」(オス)



写真2 野生色系統「WW」(メス)



写真3 交配して生まれたヒナ
左:オス(野生色)、右:メス(茶色)



粉ふき卵

	強健性		産卵性		外部卵質
	育成率 ²⁾	生存率 ³⁾	産卵率 ⁴⁾	規格卵割合 ⁵⁾	粉ふき卵の割合 ⁶⁾
「WW」	97%	98%	86%	92%	78%
「BB」	94%	95%	88%	94%	78%
一般のウズラ ¹⁾	93%	95%	85%	86%	51%

¹⁾一般のウズラを農業総合試験場で飼養した成績、²⁾35日齢時の羽数/餌付け羽数×100、³⁾140日齢時の羽数/35日齢時の羽数×100、⁴⁾期間内産卵個数/延べ飼育羽数×100(63~140日齢)、⁵⁾規格卵(9.5~12.5g)数/産卵個数×100、⁶⁾粉ふき卵の数/ウズラ群の産卵個数×100(140日齢時)

愛知県農業への貢献

平成27年8月から畜産総合センター種鶏場を通じて種卵の譲渡を開始しました。

この系統を利用し生存率や産卵性が改善されることにより生産性や収益性がアップすることが期待されます。また、「BB」のオスを利用することにより羽色で容易にヒナの性別を見分けることができ、生産コストの削減につながります。